

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 持続可能な学習者主体型教育を実現する学習分析基盤の構築
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

島田 敬士（九州大学大学院システム情報科学研究院 教授）

主たる共同研究者

石田 栄美（九州大学附属図書館 准教授）

山田 政寛（九州大学基幹教育院 准教授）

3. 事後評価結果

○評点：

A 優れている

○総合評価コメント：

本研究課題は、学習者主体型教育を実現するために、「学習分析基盤技術」「インフォーマル学習を支援するための学習環境」「学習マネジメント手法デザイン」からなる系の実現を目的として研究が行われた。その結果、教材閲覧や演習実施など学習状況の可視化技術による利用者への学習進捗の情報提示にとどまらず、統計や機械学習技術にて取り出した情報をシステム運用そのものに活用し、1. リアルタイム学習ダッシュボード、2. 学習分析用オープンソースライブラリ OpenLA、3. 学習要点記事の投稿・レビュー・公開・共有のプラットフォーム実装に至るなどの研究実績を挙げた。これらより、さきがけ研究での成果を基に新たに立てられた研究目標は、3年間のAIP加速課題研究期間内に達成したと考えられる。

また、上記の成果に加えて、コロナ禍によるオンライン教育の普及・教育関係データのデジタル化の進展を背景に、本研究成果により対面／オンラインに依存しない学習分析システムの開発に成功した点や本プロジェクトで構築したオープンソースライブラリを開発・公開し、学習分析技術の普及・展開に貢献した点についても評価できる。

今後、教育にどのような効果をもたらすかについての評価ならびに運用面での様々な課題解決を進め、「後学者の学習支援につながる学び」という大きな目標の実現に向けた研究発展を期待したい。